



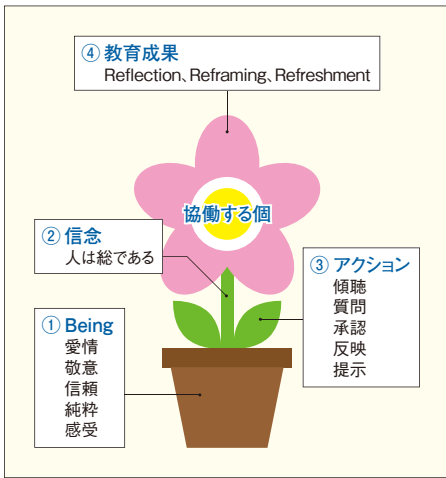
小山英樹氏
1988年私立高校の教員となり、6年後に民間教育機関に転職。コーチングの有用性に気づき「教育コーチング」などの研究を開始。2019年一般社団法人日本教育メソッド研究機構設立。「教育コミュニケーション」を確立。先生力向上・能力開発プログラムを展開。主な著書に『この一冊でわかる! アクティブラーニング』『教室改革』など。https://jemro.jp/



【著書】
『教室改革』
(幻冬舎)

「教育コミュニケーション」を実践した先生方の事例なども多く掲載され、具体的な方法を理解しやすい一冊。

●「教育コミュニケーション」の実践に重要な4要素



●先生のBeingを確認するワーク

先生自身の「Being」を確認しておくことが、生徒との対話を深めていくためには大切になる。それは、「自分がなぜ先生になったのか」という根源を振り返ることにも通じる。一人で言うだけでなく、先生同士でシェアしていくと、新たな気づきにもつながる。

- 次の5つの「Being」の中から、特に大切にしたい2〜3つをピックアップ。
愛情：どんなあなたも認め、より以上の幸福を願う私。
敬意：どんなあなたも大切に、敬う私。
信頼：あなたは大丈夫。そして私も大丈夫だと信じる私。
純粋：偏りや濁りのない目と耳であなたと関わる私。
感受：知性と感情の窓を開き、全てを受け取る私。

2 1で選択した「大切にしたいBeing」に基づいて、自分が「やること(Doing)」は何かを考える。

3 そして、そんな自分は一体「何者なのか」を表現する言葉を決める。

1〜3を以下のような文章にしてみる。

「やること(Doing)」+「大切にしたいBeing」+「何者なのか」

例)
・私は、生徒の全てを「受け取り、包み込む」(Doing)、「愛情と感受」(Being)の「教育者」(何者か)である。
・私は、困り感のある人々と、「純粋さと敬意」(Being)で「向き合い」(Doing)、全力で「支援するサポーター」(何者か)である。

●保護者対応にも役立つ! 教育コミュニケーション

傾聴、承認、質問などを重視する「対話」が身につくと、生徒への対応だけでなく、保護者との関係づくりにも役立つと小山氏。「対話の姿勢は、保護者に寄り添う構造となり、保護者の認識が、先生=敵から、先生=理解者・支援者になります。ちなみに、口うるさく要求する親の多くは、先生を困らせたいのではなく、大きな不安を抱えています。「なるほど」「そうだったんです

「人に無いものはない。人は総である」と小山氏は言います。その意識が働いているとも言えます。そうではなく、まずは目の前の集団や生徒一人ひとりは、さまざまなものを既に持っている存在として認めることから始めると小山氏は言います。

「教育コミュニケーション」を実践するために重要な要素は4つある(図)。まず土台部分が、人としてのあり方や他者に対する構えとも言える①Being。そこに立つ太い幹となる「人は総である」という②信念。そこから派生する③アクションは、「傾聴」や「質問」など教育コミュニケーションにおける重要なスキルを示す。そして、花開く④教育成果としては、アクティブラーニングなどでの「協働する

「対話を重視するとはつまり、教えるを手放すことです。しかし、それが先生にとってはとても怖い。ただでさえ勉強への意欲が低いのに、教えないと進まないのではないかと、とこころが違うんです。生徒を信じ、生徒同士がああだ、こうだやっているのを支える。この、ああだ、こうだ、自

体も学びで、結局、驚くほどのスピードで学びが深まり、教科書の進みはずっと速くなるということもあるんです」

「すべてが学びである」という思い切りや勇気も必要だと小山氏。「対話を重視した関わりは、たくさん「しななければ」という思い込みからの解放でもありません。しななければ自分に対する課題や義務感で、楽しくない、しんどいことだらけ。そこからの解放は、先生の幸福度ややりがいにもつながっていきます」

先生が楽になるから、生徒も楽になる。お互いが前向きになるクラスづくりにつながっていくのだ。「まずは1学期、対話によるクラスの中での相互作用を積み重ねてみてください。そして生徒同士で物事を解決していく雰囲気ができる、クラス運営は本当に楽になります」

「主体的・対話的で深い学び」を「聴く」対話の積み重ねがクラスを変える

「教育コミュニケーション」を実践する

「教える」を手放すことで先生も生徒も楽になる

「対話を重視するとはつまり、教えるを手放すことです。しかし、それが先生にとってはとても怖い。ただでさえ勉強への意欲が低いのに、教えないと進まないのではないかと、とこころが違うんです。生徒を信じ、生徒同士がああだ、こうだやっているのを支える。この、ああだ、こうだ、自

「まずは1学期、対話によるクラスの中での相互作用を積み重ねてみてください。そして生徒同士で物事を解決していく雰囲気ができる、クラス運営は本当に楽になります」

「圧倒的信頼感」で、教室を変える

「主体的・対話的で深い学び」を支える教育コミュニケーション

「教える」を手放すことで先生も生徒も楽になる

先生が変わると生徒も変わる

クラスを変え、学びを変えるために重要な、先生自身の「教育コミュニケーション」のあり方を、『教室改革』著者・小山英樹氏に伺いました。

高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための進路指導・キャリア教育専門誌

Career Guidance

キャリアガイダンス

編集協力委員を募集中です

「キャリアガイダンス」はこれからも、最前線で進路指導やキャリア教育に向き合う先生方と共に誌面を作ってまいりたいと思います。毎月の読者アンケートや、年数回の編集部からのアンケートにご協力いただく編集協力委員にご登録いただけますと、『キャリアガイダンス』を毎月お手元にお届けいたします(年4回・無料)。進路指導やキャリア教育に関する最新のテーマやトピックス、独自の統計データなど読み応えのある内容となっています。ぜひ多くの先生方にご登録いただけますと幸いです。

お申し込み方法

二次元バーコード、または下記URLよりご応募いただけます。※高校教員の方以外はお申し込みできません。

バックナンバーの記事はWEBサイトからご覧いただけます!

キャリアガイダンス 検索

https://rec.fofa.jp/carigai/a.p/104/